

2016年度立命館大学校友会

東日本大震災復興支援事業 東北応援ツアー レポート

「現地を訪問して想うこと」

卒業年：2015年 卒業学部：産業社会学部

名前：丸谷友紀

震災当時、私は大学入学を控えた高校生でした。テレビで報道される映像を目の当たりにし、「本当に日本でこのような事が起こっているのか」と衝撃を受けた事を今でも思い出します。なかなか被災地へ訪れる一步を踏み出せぬまま5年以上が経ち、今回のツアーに参加する事で少しでも東北の力になればという思いで応募しました。

今回のツアーで印象的だったのは、2014年に運転を再開した釜石から盛を走る三陸鉄道の震災学習列車から見た街の様子です。線路は比較的高い場所を走っており、三陸鉄道が防潮堤の役割を果たした箇所がいくもあったそうです。車窓からは美しく穏やかな海を見下ろす事ができ、ここまで津波が押し寄せてきたとはとても信じられませんでした。三陸鉄道からは沿岸にある様々な街の様子を眺める事ができましたが、地域によって被害の状況が大きく異なっていることに驚きました。被害の少なかった地域では、先人が過去の大津波の経験から「ここより下に家を建てるな」と書いた石碑を設置しており、その教え通りに街が形成されていたそうです。反対に被害の大きかった地域は、海のそばに住宅や商店がたち並んでいたようでした。このような地域も過去に津波を経験しているはずですが、時間とともに徐々に過去の被害や警告が忘れ去られてしまうことで、街が再び海の近くに作られてゆくのだそうです。過去の経験を活かす事がどれほど重要か、そしてその教えを風化させずに伝えていく事がいかに難しいかを実感しました。

また、震災を経験された交友会の方々のお話を伺い「復興したい」という想いは同じでも、住民の方々の様々な事情により、そこに住む人々自身の手で復興が中々前に進まないという現実がある事を知り、復興の難しさを改めて感じました。

今回初めて東北を訪れ、復興の現状を自分の肌で感じ、まだまだ様々な課題がある事を実感しました。そしてそれと同時に、岩手県の様々な魅力を知る事ができました。世界遺産にも登録されている平泉中尊寺金色堂、遠野伝承園、美味しいお酒や海産物、どれも大変素晴らしかったです。被災地の方々が一番恐れている事は、自分たちのことを忘れ去られてしまう事だそうです。現地に訪れ現状を知ってもらふ事、忘れないでいてくれる事、それだけでとても被災地にとって非常に嬉しい事なのだと三陸鉄道の職員の方がお話をされていた事が心に残っています。このツアーで訪れた現地の状況、東北の魅力を周囲に話す事が、少しでも東北のみなさんの応援に繋がれば嬉しく思います。

最後に、このような貴重な経験をさせて頂く機会を与えてくださった岩手県交友会の皆様、交友会事務局の皆様に感謝を申し上げます。